R4　県新人大会における感染症対策ガイドライン

1. 大会参加について

（１）大会参加する選手は、毎試合日ごと指定の参加承諾書の提出をすること。

　　　※大会参加者や関係者の安全確保のため、体調確認を丁寧におこない、決して無理はしない。チーム責任者は無理をさせない。また、参加承諾書に虚偽の報告はしない。

　　　※承諾書には健康チェック欄があり、勝ち進んだチームは返却してもらい、毎試合日ごとチ

ェック表を提出する。

　　　※親の印がなければ検温を行い、引率教員が電話等で保護者の確認し同意を得る。

（２）試合会場へは、自家用車（保護者やタクシー）を基本とする。バスを利用するチームは、バ

スの中で密にならないように座席などを工夫すること。

（３）各チームで感染症・熱中症の予防対策への準備と実行を徹底する。

　　【感染症例】手洗い石けん(ポンプ式が望ましい)・消毒液・消毒用ふきん・マスク

（４）チーム及び個人のゴミの持ち帰りを徹底する。

（５）昼食等をとる場合、指導者の指示のもと３密を避け、黙食を徹底する。

1. 大会運営について

（１）各試合以下の時間設定でおこなう。密を避けるためチーム集合時間は設定する。

第一試合　　 9：00～（試合終了目安10：50　チーム集合時間　7：45～ 8：00）

第二試合　　11：00～（試合終了目安12：50　チーム集合時間　9：45～10：00）

第三試合　　13：00～（試合終了目安14：50　チーム集合時間 11：45～12：00）

※試合開始時間は１５分以上早めない

※チームの集合場所は、指定された場所に集合、待機する。スペースでのW-UP可。

※前の試合の４回終了後or１時間経過で、攻守決定。ブルペンでのピッチング練習可。

※試合終了後、１０分後にシートノックに入る。

（２）試合成立を５回とし、試合時間が１時間５０分を越えた場合、新しいイニングに入らない。

その際同点の場合は直ちに特別延長をおこなう。また試合時間上限を２時間とし、５回試合

成立していなくても、２時間を超えて新しいイニングに入らず勝敗を決する。

（３）試合終了後、ベンチ・控室の消毒を行なう。応援席は行なわない。ベンチの入れ替えは消毒

後。応援者等の入れ替えは完全入れ替えとする。

（４）大会事務局は感染症・熱中症の予防対策のための用具を、各試合会場に準備する。

　　　※手洗い石けん・消毒液・消毒用ふきん・使い捨て手袋・マスク・フェイスシールド

ゴミ袋・非接触型検温器など

（５）各会場には、会場顧問・会場責任者・審判指導・審判員4名・記録係・放送係・ボード係・

会場係2名を置く。会場責任者と会場係を中心に、チーム受付・待機場所指示・移動指示・

応援席呼びかけ・会場巡視・消毒作業をおこなう。

（６）体調不良者等については、試合会場にいる救護担当者に対応してもらい、指示を仰ぐ。

【具体的な流れ】

チーム責任者

へ連絡

※状況に応じて保護者

へ連絡

***息苦しさ・強いだるさ・高熱・味や匂いがわからない・・・・・病院受診***

　　　　　　　　　　⇒

発熱・頭痛・腹痛・吐き気など比較的軽い症状の場合は、救護担当が応急処置をおこなう。症状の状況で

1. 保護者へ連絡し自宅or病院
2. 救護室で様子を見る
3. チームへ戻る

発熱等の風邪症状出現

※チーム責任者は、万が一の体調不良者への対応について学校長と相談しておき、選手や保護者に

周知しておくこと

※体調不良者へ対応する大会役員や救護担当は、マスク等を着用する。

※大会役員・審判員についても、会場入りの時に健康チェックをおこなう。無理はしない。

※万が一、新型コロナウイルス感染症発生時には、「新型コロナウイルス感染症発生時の大会参加ガ

イドライン（オミクロン株）Revise2.0」に基づき対応する。

３.試合前について

（１）試合会場到着後、参加承諾書の提出をする。

（２）手洗い、咳エチケット、マスクの使用、身なり、使用用具の消毒をする。

（３）選手や保護者は指定の待機場所もしくは広いスペースで大会本部の指示を待つ。

（４）ベンチ入りの許可が出たら、ベンチの広さを確認して、ベンチ内の間隔や配置を決める。

（５）W-UPなど活動時のマスク着用は義務づけないが、チームや個人で判断して着脱する。

４.試合中について

（１）試合開始前の整列は、主将は通常場所（審判団前）に、他の選手は各ファウルラインに横一

列で並ぶ。主将の握手はしない。

（２）選手・大会役員・審判員はマスク着用。しかし、軟式野球の競技環境および競技の特性、熱

中症等の予防を考慮し、競技中の選手・審判員の着用は義務づけない。

（３）監督・コーチ・控え選手はベンチ内でマスクを着用することが望ましい。選手同士の距離間

をあける。ベンチ内が密になりうる時はベンチ外(大会本部で指定される)に出る。その場

合、打球など試合進行に注意すること。

（４）密集や密接する円陣・声出しなど、むやみに接触するような行為はしない。

（５）補助員もマスクを着用することが望ましい。

（６）ベンチからの指示は、飛沫防止を考慮して、マスク着用・声の出し方（大きさや方向）・ジャ

スチャーなどの対応をする。

（７）タイム中距離を縮めて話したいとき、監督はマスクを着用し、選手はできるだけグローブで

飛沫を抑えて会話をする。

（８）選手はプレー中やプレイ間でのむやみな接触や会話を避ける。

５.試合後について

（１）試合終了後の整列は、主将は通常場所（審判団前）に、他の選手は各ファウルラインに横一

列で並ぶ。主将の握手はしない。

（２）手洗い・体調の確認をする。

（３）引率教師は大会本部にチームの状況（体調確認の結果）を報告する。

６.応援等の会場について

（１）保護者等の応援は特に規制しないが、以下の対応をおこなう。

※各会場使用マニュアルを対象チームに配布し、事前に感染症対策の理解をしてもらう。

※当日保護者もチーム待機場所に集まり、そこで体調確認をする。（チーム責任者・保護者責

任者が責任を持って）

※チーム待機場所で体調確認ができていない方は、本部にあるチェックシートの記入をして

もらう。（本部もしくは大会役員からシートをもらう）

　　　※入場許可証として、紙リストバンドを付けてもらう（再入場者把握のためにも）

　　　※大会役員が定期的に３密を避けること、体調未確認者の呼びかけをおこなう。

　　　☆両腕間隔(片腕間隔)の距離をあけての観戦を守ってもらう。

（２）消毒液を会場入口に設置する。選手・応援・大会役員は、試合会場の手洗い場を確認する。

（３）会場ごと大会役員の待機場所・放送、BSOなど人数制限・距離・換気の対応をする。